

第4回第二期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会 議事概要

○日時 平成 29 年8月 22 日(火) 10:00～12:00

○場所 高知共済会館3階「桜」

○出席者【委員 13 名】

委員長	広末 幸彦	副委員長	古谷 純代
委員	西村 修一	委員	早川 賢治
委員	山添 真理	委員	亀川 代平
委員	高橋 政明	委員	笹岡 和泉
委員	大谷 聡	委員	北澤 和彦
委員	松本 明		

【オブザーバー 6名】

池田 義明	尾下 一次
門吉 直人	藤沢 照夫
杉本 雅敏	橋詰 辰男

【事務局】

高知市商工観光部長 松村 和明
高知市商工観光部商工振興課長 谷浴 新也
高知市商工観光部商工振興課 課長補佐 松岡 宏輔 外
株式会社第一コンサルタンツ

○次第

- 1 開会
- 2 新委員の紹介
- 3 議事

(1)中心市街地活性化に向けた基本方針、目標・指標及び計画区域の設定（説明:事務局）

■質疑等

【委員】

評価指標 1 「中心市街地の居住人口の割合」の分母である市全体の居住人口は、国立社会保障・人口問題研究所の数字を使って目標値が出されていると思うが、この推計値は常に下方修正を続けており、かなり甘い推計になっているため、結果的に目標をかなり上回ることになるかと思う。

中心市街地の居住人口を減らさないということが目標になるのだとすれば、人口の割合ではなく中心市街地の居住人口を維持することを指標として採用した方が良いのではないかと。

また、目標3「また訪れたいと思うまち」の実現についてだが、目標に「また」という表現を入れている一方で、指標が入館者数になっている。オーテピアやよさこい交流館は何度も訪れる人がいないと思う。リピーターを増やしたい目標だとしたら、入館者数が目標・指標とリンクしていないといけない。目標の文言から「また」をとってはどうか、その方が説明しやすいと思う。

<事務局>

居住人口については、分かりやすい数字ということで計上している。国との協議の中でも、現状維持というのでは、なかなか目標にはならないことも意見としていただいております、全体の中の割合で数字を出すのが一番分かりやすいということで、今回は人口割合を指標としている。

国立社会保障・人口問題研究所の数字の使用については、公的な数字として公表されているものであるため、この数字を採用した。

目標3の「また訪れたいと思うまち」の実現については、観光客だけでなく高知市民の方にも、中心市街地へ来ていただきたいということもあり、「また」という表現を入れている。

【委員】

では、目標値1.61%というのは、これを最低限維持するということなのか。

<事務局>

現状維持ということを目指しているが、中心市街地の魅力が増すということになれば、またこれ以上の方に中心部の方に住んでもらうこともあると思う。最低、この目標を掲げているが、それ以上を目標にしていきたいとは考えている。

【委員】

目標3「また訪れたいと思うまち」の実現についてだが、高知の観光振興にとって、最も重要なのはリピーターを増やすことだと思う。そうすると、「また」ということが、やっぱり維持したほうがいいと思う。

<事務局>

先ほどご意見をいただいたリピーター調査だが、実数を調査するのは難しいと思う。

【委員】

『じゃらん』がリピーター追跡調査等さまざまな調査を行っている。そういった外部の数字を使うというのも一つのやり方だと思う。

【委員】

国内外からの来街者への対応という課題が示されているが、中心市街地の活性化を考えると、市民以外を対象にするのではなく、中心市街地のエリア外に居住している方が中心市街地に訪れる、来街する。そういった方も対象にしているのか。

<事務局>

対象については、観光客だけではなくて、高知市内の方にも、周辺部からまた市内の中心部へ来ていただきたいということで考えている。

【委員長】

課題3については、市内も含めて県内から中心市街地へという観点がちょっとここでは抜けているのではないかと。

<事務局>

表現について、少し整理したいと思う。

【委員】

1点目は、基本コンセプトについて。前回の資料では、中心市街地のコンセプトということで、より包括的なコンセプトになっていたと思う。「チャンスを活かし」という表現だが、結果的にどうなったということだけではなく、この表現を削除したあるいは優先順位として下げた経緯を説明してもらいたい。

2点目は、今回あるいは最終的に基本計画がまとめられる段階で、活動の質、例えば、目標1の達成にどういったトライアル・アンド・エラーをやってきたかを進捗会議で確認していくような仕組みがあり、ここで表現しきれない言葉をすくい上げていくような計画となれば良いと思う。

<事務局>

目標管理については、フォローアップ委員会が別途あるので、そちらで目標管理については報告をしていくような体制になっている。

基本コンセプトについては、確かに「チャンスを活かし」というのは、一つは、前回で言えば、観光客とかそういった方が訪れる機会が増えているというのをチャンスという考え方がある。あまり長くするよりも、端的に表現したほうが、コンセプトとしてはいいのかなということもあり、地域資源の魅力が大きなスポットで、そのチャンスを活かせるのではないかとという意味で包含しているイメージではある。

ただ、ご意見もいただいたので、「チャンスを活かし」という表現がコンセプトにあったほうが良いということであるので、もう一度、コンセプトを再考したいと思う。

【委員】

3ページの目標・指標（案）の流れで、課題があって、コンセプトがあって、方針があって、目標があるという流れのほうが、自然ではないかと思う。

<事務局>

内閣府が示している中活計画の構成、組み立てがこういう形になっている。それに合わせている。この表現を少し変える形で、計画として、構成として、構わないかということ、内閣府にも問

い合わせし、了解となれば、よりわかりやすい構成に切り替えていきたいと思う。

【委員】

この中活基本計画だが、市街地整備、都市福利の整備、街なか居住、商業の活性化というのが一番大きな柱だと思う。その観点から言うと、3ページの案では、商業の活性化という部分が明確に盛り込まれてないのではないかと感じる。業務の一番基本的な部分について、この目標、あるいは方針の中に盛り込んでいく必要があるのではないかとと思うが、その点はどう思っているのか。

<事務局>

それについては、国のほうの歩行者通行量の偏在化とか、国内外からの来街者への対応に含めているが、少し表現が弱いということなので、文言についてはまた修正等をさせてもらう。

【委員】

高知に来てまだ2か月であるが、驚いたことの 하나가 病院の多さである。

目標2のところ、福祉という表現があるが、中心地に人を呼び込む方法として、医療はすごく魅力的だと思う。

<事務局>

現行計画の登載事業であった帯屋町チェントロにも、複合施設の中に医療機関も入っており、それが安心して高知の中心街でも暮らせるということの大きなメリットであると思う。

医療施設をつくるというような事業は、今のところ入っていない。帯屋町一丁目の複合施設は、まだ具体的な中身も決まっていないが、もしかしたら医療施設も機能として入ってくる可能性はあると考えている。

【委員】

先ほど、病院の話があったが、病院が近い。それと、車に乗らなくてもまちに行ける。これが市街地に住む最大のメリットである。しかし、スーパーマーケットが市街地では非常に限られるので、日常生活をする上では、問題点として挙がってくる。

資料1・3ページの表で非常にわかりづらいのが、課題に至る前の問題点・改善点等を、もう少し出し切ったほうがいいのではと思う。

それと、目標値についても、商業の発展という面で言えば、新規出店数などの指標も考えられるのではないかと。

<事務局>

新規出店関連の指標については、現行計画では参考指標として空き店舗率を設定していた。新規出店数となると、結構出入りがあり、常に新しい店舗がどのくらい出店したのかは測定しにくいところがある。

もし、空き店舗率ということであれば、それはこれまでと同様に参考指標として設定することは

可能かと思う。

【委員】

今回の資料からは福祉という言葉が消えているかなと思う。65歳以上の人口も、4人に1人から3人に1人となっていく時代で、高齢の方や障害のある方や、小さな子どもさん連れの方も結構まちに来る。その際、小さな赤ちゃん、子どもさんを抱えて買い物をして、移動をしているのは大変そうである。そういった方々の、という意味合いの言葉がどこかに入れていただけるといいのかなと思う。

それと、高知は医療施設が多いと言われている。医療費も結構、経済的負担が大きいと言われている。医療施設から退院したあと、ちょっとした移動が不便で家に引きこもってしまうという方が多い。高知は、医療施設から退院した方の数も多いということがあって、中心商店街でも、車イスやベビーカーの無料貸し出しとか、ボランティアが付き添って買い物に行くとか、そういった面でタウンモビリティを活用してもらっている。視察も来ており注目されている。

【委員長】

「すべての世代が永く住み続けられるまちの実現」の表現の裏には、医療施設も福祉施設もあり、様々な方々を当然含んであるとは思いますが、その文言がない。

<事務局>

暮らしやすい中心市街地の実現というのは、ただ今ご指摘いただいた意味を含めているが、様々な人が訪れやすいようなまちにというような福祉的な表現を考えたいと思う。

【委員】

外国人の観光客も非常に増えている。弊社もホテル業をやっているが、対前年比でかなりのパーセンテージを上回っている。そして、一般の観光のお客さんも対前年比を上回っている。

まちの賑わいも、商店街を歩いてみると、非常に賑わっていると感じる。自分なりの分析だが、商店街の中に飲食店が非常に多くできたことである。居酒屋系や、魚屋が産直で魚を運んでやっている飲食業が非常に多くなって、夜眠っていたまちが今、夜中まで賑わっている。県外からの来街者の方はそれを目指してやってくる。結局、観光だけじゃなく、おいしいものを食べに来たい。宿泊料を払っても食べに来たいというお客さんが非常に多くなっている。

このお客さんが、自分の事業所の中で見ている限り、リピーターが非常に多い。

それと私は自分の事業所の上に居住しているが、商店街の中の方は、商店街に住まわずに、仕事は商店街、住まいは市外の方がいるが、一番の効果策は、自分の事業所の上に住んでいることが、一番数字を上げていくのではないかと思う。

【委員長】

指標として、ひろめ市場の入場者数を含んでどうか。商業であれば、大丸の入館者数がどうなっているか。売上がどうなっているか。

【委員】

先ほど拠点施設の指標について意見があったが、県民文化ホールは1万1,550人で、自主事業と括弧書きがある。27年度だけでも31万人以上の来館者がある。そこは最新の28年度のを把握されて、その数字を基準として掲げるほうがいいのではないか。

<事務局>

県民文化ホールだが、当初は入館者数ということで設定していたが、入館者数には財団の自主事業と、あと、貸し館の事業があり、貸し館の事業の方は、目標値を設定していないので、目標値として設定している自主事業のほうを採用させていただいたという経緯がある。

【委員長】

県民文化ホールということで言えば、いろんなコンサートもやっているが、それは貸し館事業だと思う。貸し館事業等の実績はわかるのだから、その値を使用したらどうか。

<事務局>

所管課に問い合わせたところ、ほかの計画との整合性の観点で、自主事業のみということで行われている。

【委員長】

貸し館事業の実績値を使用することは別に何か問題があるわけじゃないように思う。事務局の方で検討をしていただきたい。

【委員】

この計画そのものというよりは参考意見だが、観光客が通るルート、動線のようなものがあると思う。そのルートを把握してはどうかと思う。本体計画に入れ込むというのはなかなか、いろいろな可能性の中で、これを決め込むというのは難しいと思うが、今後、計画ができれば、いろいろな方に情報発信をされると思う。そのようなことも考えていただければ、よりわかりやすくなるかなと思う。

(2)計画に登載する事業の検討(説明:事務局)

■質疑等

【委員】

最初の目標に「また訪れたいと思うまち」というのがあったが、障害のある方、高齢の方、医療施設から出て在宅で引きこもっている状態で、まちへ出かけてくるのに一番不安なのは、やっぱりトイレであり、自分が使えるトイレがあるだろうかという不安と、長距離の移動。商店街が長いので、それが不安ということがあって、出かけるのを諦めている。しかし、一度出かけて来られると、

リピーターになるという方がほとんどである。

新規事業には入っていないが、今年度、タウンモビリティのほうで、中心商店街バリアフリー情報発信事業ということで、新たに、街なかバリアフリー調査とマップ製作を、商工振興課から委託を受けている。案が出来た段階では、ぜひ委員の皆さんにも意見をいただきたいと思っている。

その事業は、この計画に盛り込まれないのか。

<事務局>

この計画は、計画期間が平成 30 年 4 月からになっている。バリアフリーマップ作成事業は今年度の取組になっているので、二期計画には掲載できていない。

ただ、今後、タウンモビリティ活動の中で作成したマップを活用いただくことで、来街の促進という形で進めていただくと考えている。

【委員】

中心市街地は、コンビニは多いが、日常生活の中でスーパー等が必要と感じる。

西の方はひろめ市場などがあってずいぶん前から賑わっている。東側に魅力的な事業が必要かと思う。具体的に思いつかないが、空き店舗等利用してはどうかと考えている。

私は主婦だが、子どもたちを連れてきたりしても、やはり楽しいところでないと、頻繁には訪れない。そのため、今回の大丸リニューアル事業を非常に期待している。

【委員】

資料 1 に戻るが、基本方針がまとめられ過ぎていて、それぞれの課題に直接結びつかない。

それと、課題 2 の参考指標だが、エリア別の通行量によると、西側が増えて、東側が少なくなっている。今回の掲載されている事業の中で、東側に対する事業が少ない。東西で偏りが無い事業を掲載すると思う。

マップの話だが、今、商店街のほうでも、外国人や観光客の方に対して、それから転勤されて来た方に対して、それから障がい者の方など様々な方に対応するマップを何とか考えている。各事業の中で紙媒体のマップはよく作るが、紙媒体のマップは作成した瞬間から陳腐化する。各事業の中でマップを作りたいときには、観光面、福祉面、いろいろな面を含めた、例えばデジタル上でマップを作ってもらってはどうか。

この仕組みが、どの事業でもいいので計画に盛り込んでいただければ、ぜひ一緒になって検討したいと思う。

<事務局>

今、どうやって取りまとめようか、どうやってやったら実現できるか。ご意見いただいたら、すごく良い事業、良い取り組みになるのではないかと感じているが、これを今すぐにとというのは、なかなか難しいと思いながら、事業化できれば、それを変更で挙げていくとかいうのは、考えとしてはあるのかなというふうに思う。

【委員】

個別事業の話になるが、資料3の事業No.50「創業支援情報発信事業」についてであるが、創業支援の情報発信ということではいいかなと思うが、情報発信に限らず、もう少し広い意味での支援という事業の形にならないか。あるいは、そういう意味の新しいものがないかと思う。

今、いろいろな新しい働き方や、起業の仕方がある中で、人と人との交流の場として、例えば、サロニックな交流機能を備えたようなコワーキングスペースで一緒に働けたり、作業ができたり、あるいは、それぞれの用事で来た人たちが、空間を共有するようなスペースがあって、そこに情報発信機能が空間とセットであり、異業種間の交流や地元商店街の方と外部の交流が生まれれば良いと思う。

事業No.49「学生と商店街の連携事業」についてであるが、うことで、学生の動きと企業あるいは商店街と共同で実験的に商品開発やイベントの試行をやってみる“ラボ”のような要素が入れば良いのではないかと思う。

No.49, 50に関しては、トライアル・アンド・エラーがしやすい形のものに、新しい動きをつかみやすいものにしていただくとより良いと思う。

No.22「クールチョイス事業」については、国の動きとも連動していて、非常に良いと思う。

目標1の「すべての世代」とは、いわゆる将来世代、今居る世代以外、次世代も含めての意味でも恐らく捉えられていると思うので、そういう意味でクールチョイス事業が位置付けられるということに記載してはどうか。

最後に参考意見であるが、資料4が目標ごとに事業が再整理されていてわかりやすいが、事業をカテゴリー別に、環境に関する事業というふうに事業をグルーピングしてみるといいと思う。

<事務局>

事業50のところでは意見をいただいたコワーキングスペースの件であるが、今建設中のオーテピアで、そういったスペースを確保するようになっており、オーテピアの中に含まれていると認識をしている。

また、事業50の事業内容は創業支援に関する情報発信であるが、空き店舗対策事業としては、空き店舗活用創業支援事業という補助金メニューを中心市街地活性化基本計画に基づいて設けており、中心商店街エリアは補助率も他の区域より高く設定している。

【オブザーバー】

新規事業の中で、資料2の3、レンタサイクル事業。現状、どういう効果があるのか教えていただきたい。

<事務局>

中心市街地にいろいろな地域資源がある中で、それらのそれぞれの魅力を相互に活かして、回遊性を高められるように、快適に移動できるように、レンタサイクルを導入するというもの。評価指標としては歩行者通行量にはなっているが、いろんな所を回ること、自転車で回って、そこで降りて、歩いて、まち歩きをするということも考えられるので、そういった面から、中心市街地全体

の回遊性向上につながる事業として実施を考えている。

【オブザーバー】

市街地活性化というのがテーマですので、お金の動きもすごく大事なことではないかと思う。中心市街地にどのような経済的な貢献や動きがあるのかなというところが、取り上げられればいいと感じた。県外からの入込客数というのは、数は大事だが、実はどれだけ消費されるかということがすごく大事なことで、そちらのほうの視点が入ればなおいいと感じた。

【オブザーバー】

資料2の事業No.9「丸ノ内緑地整備事業」及びNo.10「藤並公園整備事業」は都市建設部として来年度から計画していく事業であり、高知城歴史博物館も開館して高知城との間で観光客等の憩いの場づくりという目的で丸ノ内緑地と藤並公園を入れさせていただいたが、中心市街地全体で公園をどのように活用していくかということは、都市建設部として検討していかないといけないと考えている。中身がまだ具体化したものではないので、来年度からまた検討していきたいと考えている。

【オブザーバー】

まちが活性化すれば当然、人と車が増える。最近、外国人の観光客の方も非常に増えており、その対策ということで県警も考えており、高知城追手門前の押しボタン信号機を中国語で表記するという安全対策も、小さいことではあるが行っている。

これからも観光客や地元の方が安全で安心して暮らせるまちづくりについて協力していきたいと考えている。

【オブザーバー】

事業の優先順位についてだが、例えばもっと戦略的に進めていく事業、強靱化して推進していく事業などをメリハリをつけて整理すると分かりやすいと思った。

4. その他

事務局から第5回検討委員会を平成29年10月頃に開催することを報告

5. 閉会

以上